

「つるおかコンポスト」による 地域内資源循環の「輪」 鶴岡市・鶴岡市農業協同組合

下水汚泥

堆肥製造

その他

原料供給

市と農協で作るコンポストの安全性確保や有効利用を進め、産学官連携による市民に親しまれるコンポストを目指す取組

団体紹介

団 体 名	： 鶴岡市・鶴岡市農業協同組合
所 在 地	： 山形県鶴岡市
団 体 の 主 な 活 動	： ①下水汚泥を供給 ②コンポストセンターを運営し、コンポストを製造、販売
ウ ェ ブ サ イ ト	： https://www.city.tsuruoka.lg.jp https://ja-tsuruoka.or.jp

取組概要

●背景・目的

昭和50年代から下水汚泥ともみ殻を地域特有の資源と位置づけて、市民の利益となる緑農地還元の調査、検討を行い、同60年代に「つるおかコンポスト」の製造及び販売を開始した。以降、多くの市民に使っていただくことで地域内で下水汚泥が資源循環されるよう、利用拡大のための施策に取り組んできた。

●取組内容・ポイント・効果

原料とするバイオマス 下水汚泥（80％）及びもみ殻（20％）

国内資源肥料の年間製造量（製造率）

530t/530t（100％）

「つるおかコンポスト」の利用拡大に向けた安全性の確保や情報発信などさまざまな取組を行っており、その中でも特徴的なポイントを紹介する。

①下水道の排水対策や毎月1回の重金属含有量の精密分析で安全、安心なコンポストに

下水汚泥に有害物質がなるべく入らないよう、事業所などに排水対策や指導を行っており、特に歯科診療所については隔月で水質分析を行うなど、安全性には細心の注意を払っている。コンポストについても同様に、肥料法で定める重金属の含有量について、鶴岡市農業協同組合が毎月1回、精密分析を行い、その結果を市に報告を受け、ホームページで公表することで、安心安全なコンポストづくりのためのチェック体制を構築している。

②産学官連携で下水道資源の有効利用を推進

山形大学と共同で「コンポストを用いた高タンパク飼料作物の栽培試験」や「地力回復試験」など施肥効果に係る研究を行っている。ここでは大学の知見に基づく安全性の評価や、化成肥料、畜産堆肥との土壌改良効果の比較、コンポストの有用性など、得られた結果を活用した情報発信を行うことで、農業を営む皆さんの理解を得て、コンポストの利用促進や農業振興につなげる取組を行っている。

③鶴岡の未来を担う子どもたちに慣れ親しんでもらう

作られたコンポストの一部は、市内の保育園や幼稚園、小中学校に無償提供している。コンポストの提供を通じ、子どものころから土と触れ合う機会を作ること、コンポストに親しみを持ってもらうだけでなく、土と触れ合う楽しさを知ってもらい、農業の大切さや循環型社会の形成、持続可能な農業などの環境教育の一環として役立てている。

これらの取組効果もあり、現在、製造する530 tの全量が市内の農地に還元されている。今後も地域内資源循環によって、市民に還元できるよう取組を継続していく。



コンポストで育ったトマト



コンポストで育ったホウレンソウ



コンポストで土に触れるきっかけづくり